

Annual Report

2023



特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会
2023年度 年次報告書

代表挨拶

2023年度の活動は、コロナ以前に行っていた活動をほぼ実施することができました。

ただ、3年間活動を停止もしくは縮小したことで、先輩から後輩へと受け継がれてきた組織運営やプロジェクト運営のノウハウやスキルが継承できず、学生一人ひとりにとっても組織全体にとっても大きなロスを生むことになりました。

また、諸物価高騰の影響、特に移動費（バス・飛行機等）が大幅に値上がりしたことによるコストの上昇、会員管理システムの新規開発、組織運営を強化するために新規職員（3名）の採用等、経営的には厳しい年となりましたが、担当学生及び職員の奮闘で何とか無事に乗り越えることができました。

そんな状況下、本年1月1日能登半島地震が発生。この災害に対して1月12日に第1次救援隊を派遣。現在（6月10日）、20次隊が現地で活動を行っています。

この活動は、関西、関東から派遣隊を編成し、富山県氷見市の住民の方の協力により、そのお宅を拠点とすることができました。マスコミの報道がほとんどない氷見市においても被害は大きく、周辺地域の家財の整理や搬出、倒壊家屋や塀などの撤去作業を行いました。

同時に悪路の中、震源地周辺の調査を踏まえ、インフラが崩壊した石川県珠洲市にある比較的規模の小さい避難所（断水状態）を中心に炊き出し等を行いました。

活動期間は概ね金曜日から月曜日とし、これまでの参加者は、学生452名、卒業生52名、職員52名、理事3名、延べ559名が厳冬の時期から活動してきました。

5月の連休には、第16次隊として、IVUSA会

員113名（高校生会員21名）と、地元の方々30名が参加して、石川県珠洲市宝立地区の津波の被害があった鵜飼海岸において、災害廃棄物の回収と分別作業を行いました。清掃終了後、「毎日、災害の爪痕が残る海岸を見るのがつらかった。これで少しはすっきりした」という住民の言葉が印象的でした…。

未だ、断水が続く避難所で生活する人たちのほとんどが高齢者という状況の中、炊き出しも、回数を重ねるごとに、塩分控えめなど、住民のニーズに添った内容に進化していきました。メニューはその都度変えています、実際に作ったメニューを二つ紹介します。

- ・ごぼうの混ぜご飯、タコと里芋の煮物、酢の物、豆腐とナスと長ネギの味噌汁、たくあん。
- ・あさりと人参の混ぜご飯、肉じゃが、ほうれん草のごま和え、たくあん、フルーツヨーグルトなど。

当初、里芋の煮物にはイカを使っていましたが、地元はタコを使うということで変更したところ、大好評だったようです。

6月9日からの20次隊では、石川県立飯田高校吹奏楽部の高校生と一緒に演奏会に参加しました。この日のために高校時代に吹奏楽部だった学生を含めたIVUSA会員は、直前の19次隊にも参加してリハーサルをしました。

飯田高校吹奏楽部の生徒は地震により3人が転校し、現在の部員数は8人。例年、定期演奏会を実施していた高校体育館が地震により損傷したため、会場は道の駅「すずなり」で行われました。

定期演奏会は部員8人とIVUSAや日本財団ボランティアセンターのボランティア等、約50人が

NHK 連続テレビ小説「まれ」の主題歌「希空～まれぞら～」の合唱と演奏をしました。

吹奏楽部副主将の大坪智弥さんは、「一緒に演奏して、ボランティアの人たちに感謝を伝えたかった。そして、住民の人たちがたくさん聞いてもらったことが、うれしかったし、いい思い出になった」と話していました。

演奏会に参加した IVUSA の学生にとっても、忘れられない思い出となったことでしょう。

これらの被災地に対する直接的な活動とは別に、関東で延べ 83 回 449 名、関西で 55 回 286 名が街頭募金を行い、一旦、3 月 27 日に石川県に 1,969,364 円、珠洲市に 1,000,000 円の義援金を送付しました。募金活動は現在も継続しています。

これまでも、これからも住民に寄り添いながら、学生が持つ若さを発揮した活動を継続していきたいと考えています。

世の中は確実に混沌とした時代に入ろうとしているように感じています。今こそ、若者が持つ才能や熱意を結集して、人と人が繋がっている社会を築いていくことが重要だろうと考えています。

皆様の一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会
代表理事 下村 誠



Annual Report 2023

代表挨拶	2	その他の事業	14
2023年度事業ハイライト	4	研修	15
事業報告		学生・職員座談会	16
地域活性化	6	協賛企業一覧	20
環境保護	8	メディア掲載一覧	21
国際協力	11	収支報告	22
災害救援	12	団体概要(31期学生組織)	23
子どもの教育支援	13		

2023年度

事業ハイライト

2023年度、IVUSAは合計1,196の事業を実施し、延べ10,319名が参加しました。その中でも3つをピックアップし、詳しく紹介していきます。

1. 災害救援活動

2023年度は日本を含む世界各地で記録的な高温が発生。世界・日本の年平均気温がこれまでの記録を大きく上回り、統計開始以降最も高い値となりました。こうした異常気象や気候変動の影響もあり、6月の台風2号、6月から7月にかけての梅雨前線による大雨、9月の台風13号などにより多くの水害が発生。年明け1月には能登半島地震が発生するなど、自然災害が多発の年となりました。

こうした災害に対し、1府6県、27回、延べ939名の災害救援活動を実施しました。

能登半島地震では、発災直後から準備を開始し1月12日以降3月末まで、毎週末派遣。避難所のサポートや、炊き出しといった、命をつなぐ支

援から、がれきの撤去や家屋の復旧、貴重品探し、ライフライン整備など多岐にわたる支援活動を行い、今期も継続中です。息の長い支援が必要となっています。

また募金活動も、トルコ・シリア地震街頭募金を日本赤新月社に、能登半島地震街頭募金を石川県と石川県珠洲市に、合わせて3,157,437円と多くの方の気持ちを届けさせていただきました。さらに、卒業生からも能登半島地震支援金として300万円の寄付をいただきました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。



2. 企業との連携

2024年3月に琵琶湖湖岸の一周清掃を行いました。また、今回の活動では、ただ琵琶湖を清掃するだけでなく、無駄や浪費をなくしできるだけごみを生み出さないようにする“ゼロウェイスト”という考え方を活動に取り入れました。ゼロウェイストの取り組みは、「私たちがこれまで行なってきた清掃活動のあり方を見直し、活動中に生み出してしまうごみの量をどうすれば削減できるのか、を考えて実践すること」「企業の方に私たちの活動の理念に対して共感していただき、ゼロウェイストの取り組みを社内でも実践していただく」の2つを軸に行いました。

理念に共感してくださり、今回ご縁のあった企業様とは、これから環境負荷の少ない製品を活動で積極的に導入することや、回収したごみをリサイクルして製品にすることなどを模索していこうと考えています。また、企業様の様々な取り組みを多くの人たちに知ってもらうための情報発信も積極的に行う予定です。

その他にも、読売テレビが主催する鳥人間コンテストのイベントの期間中に、会場となっている滋賀県彦根市松原水泳場の湖岸の清掃ボランティアにも協力させていただいており、イベントを行うことでの環境負荷を少しでも減らすための取り組みについて一緒に考えさせていただいています。



3. 韓国人学生との海岸清掃、国際プラスチック条約への提言

韓国との国境の島・対馬は、海流や地形の関係で日本で最も海洋ごみ問題が深刻な場所となっています。そこで夏に釜山外国語大学の学生と、春には釜山文化財団の方々と一緒に清掃活動やワークショップを実施しました。これで2019年に対馬での清掃活動を開始して以来の一つのゴールを達成することができました。

また2024年は海洋ごみを含めたプラスチック問題に対して法的拘束力のある国際約束(条約)の文書を制定するための政府間交渉の大詰めです。IVUSAではWWFジャパンをはじめとする様々な団体と一緒に野心的な国際プラスチック条約の発足にむけた提言や情報発信を行っており、3月31日にはワークショップも実施しました。

最後の政府間交渉委員会(INC-5)が11月に韓国・釜山で行われることになっており、IVUSAではこれまでのパートナーシップを活かし、釜山でも提言のための企画を実施する予定です。



地域活性化活動

利島椿産業保全活動



活動日時：8月6日～9日（天候不順により期間短縮）

活動場所：東京都利島村

参加人数：37名

活動内容：椿農家支援の椿畑下草刈り

カウンターパート：利島村、利島農業協同組合、株式会社TOSHIMA

成果・課題：椿農家7軒、8箇所の椿畑下草刈り

千葉県佐倉市 里山自然公園整備活動



活動日時：2月27日～29日

活動場所：千葉県佐倉市

参加人数：49名

活動場所：西部自然公園の遊歩道整備・遊具制作

カウンターパート：千葉県佐倉市、森のようちえんさくらんぼ、佐倉西部自然公園支援し隊

成果・課題：公園北西竹林域の遊歩道整備、3種類の遊具制作

新潟県長岡市 長岡まつり活性化活動

活動日時：8月1日～4日

活動場所：新潟県長岡市

参加人数：55名

活動内容：長岡まつりへの参加（神輿渡御や灯籠流し）、フェニックス花火街頭募金・観覧席の運営補助、交流会

カウンターパート：特定非営利活動法人ネットワーク・フェニックス、一般社団法人長岡青年会議所、一般財団法人長岡花火財団、栃堀区

成果・課題：募金総額1,861,300円、コロナ禍後初めての活動となり、活動のノウハウを取り戻せた一方で、地域住民との協働や交流は限定的な活動となった



新潟県長岡市栃尾 ふるさとづくり活動（とちお祭）



活動日時：8月25日～28日

活動場所：新潟県長岡市

参加人数：47名

活動内容：とちお祭への参加（全日本樽神輿選手権、民謡流し、神輿渡御）、とちお祭でのよさこい披露、花火観覧（とちお同住会との交流会）

カウンターパート：栃尾同住会、栃堀区、一般社団法人 栃尾観光協会

成果・課題：コロナ禍後初めての活動となり、活動のノウハウを取り戻せた一方で、地域住民との協働や交流は限定的な活動となった

三重県熊野市活性化活動



活動日時：8月19日～24日、8月28日～30日

活動場所：三重県熊野市

参加人数：123名

活動内容：花火大会の運営補助

カウンターパート：熊野市、熊野商工会議所、記念通り商店街

成果・課題：天候の影響で2回延期になり、熊野花火大会本番の運営には13名しか参加できませんでしたが、運営補助を滞りなく行うことができた。花火大会の日程が台風が発生しやすい時期であるため、天候の影響により花火大会を実施できるか否かが大きく影響されてしまうことが課題

長野県飯山市活性化活動



活動日時: 5月27日～28日、7月22日～23日、8月8日～10日、9月16日～18日、9月23日～24日、2月8日～12日

活動場所: 長野県飯山市

参加人数: 250名

活動内容: 雪まつり、かまくら祭りの運営補助・大川地区の古道の整備・柿畑の管理のお手伝い等

カウンターパート: 飯山市、いいやま雪まつり実行委員会、かまくら応援隊、イビューサぽーと飯山みゆき野、飯山市針田地区、飯山市上野地区、大川有志の会

成果・課題: 祭りの成功に貢献し、年間を通じた継続的な支援を行えるようになったことは成果。住民を対象にしたスマホ教室を実施し、非常に満足度が高かった。一方、例年と同じ取り組みをすることが多く、地域住民に喜んでもらうための新たな取り組みを行えていないことが課題

岡山県備前市 日生諸島活性化活動



活動日時: 8月18日～21日、2月23日～26日

活動場所: 岡山県備前市日生町、頭島、鹿久居島

参加人数: 166名

活動内容: 海岸清掃、かきまつりの手伝い、里海保全活動、交流会

カウンターパート: 備前市、備前市里海里山ブランド推進協議会 with ICM、一般社団法人 備前観光協会、一般社団法人 みんなでびぜん、ひなせうみラボ、日生町漁業協同組合

成果・課題: 里海のトップランナーの日生において、漁師さんたちと里海保全活動として、アマモの再生、海岸清掃などを実施できた。人手が不足しているひなせかきまつりにおいて、運営補助を担うことで地域のにぎわいに貢献できた

新潟県関川村活性化活動

活動日時: 8月25日～28日、2月3日～2月12日

活動場所: 新潟県関川村

参加人数: 184名

活動内容: 大したもん蛇祭り運営補助、孫の手ボランティア、セツ谷雪ほたる祭り、大石どもんこ祭り運営補助

カウンターパート: 関川村、関川村 IVUSA 後援会、おりのの会、地域の茶の間、大石山と川に親しむ会、谷人倶楽部

成果・課題: コロナ禍で中止になっていた活動が復活し、地域の方と連携しつつお祭りを実施することができた。地域の困りごとへの対応、ニーズを把握することができたが、どのように対応するかが今後の課題



静岡県西伊豆町活性化活動



活動日時: 5月27日～28日、6月24日～25日、7月15日～17日、9月15日～17日、10月21日～22日、10月29日、11月11日～12日、11月18日～19日、12月2日～3日、12月25日～1月5日、1月27日～28日、2月29日～3月4日

活動場所: 静岡県西伊豆町、静岡県沼津市

参加人数: 258名

活動内容: 地産地消域内循環を目指した畑を中心としたビジネス事業開発、フェスの実施、町民との交流等

カウンターパート: 西伊豆町、西伊豆町まちづくり協議会食部会、西伊豆町宇久須まちづくり協議会、西伊豆観光プラットフォーム、株式会社西伊豆プロジェクト、ベルテックス静岡、西伊豆町立西伊豆中学校、はんばた市場、ジオパラダイス西伊豆、ほりらぼ、西伊豆ジビエフード、Il Azzurri (イル・アズーリ)、海辺のかくれ湯 清流、一般社団法人つちからみのれ、認定 NPO 法人緑の地球ネットワーク、松田農園、安良里自治会青年部、東レ・アローズ (Vリーグ)

成果・課題: 試作開発したコロッケ 2,800 個をすべてさばき切り、次の商品開発の資金を調達できた。事業イメージを可視化するリーフレットを作成、それにより飛躍的に関係者理解が得られると同時に学生たちの事業理解にもつながった。畑管理の住民協力と事業の効率化、販売管理と資金調達が課題

環境保護活動

ラブリー山中湖環境美化活動



活動日時：5月13日～14日、8月1日～2日

活動場所：山梨県山中湖村

参加人数：163名

活動内容：山中湖畔の清掃活動、子ども向け環境ワークショップ、地域の方との交流会

カウンターパート：山中湖村、ラブリー山中湖有志の会

成果・課題：2年目の活動だが、かなり定着し多くの地域の方に参加していただいた。11月には山中湖村から表彰も受けた

長崎県対馬市海岸清掃活動



活動日時：7月15日～16日、8月23日～26日、3月14日～17日

活動場所：長崎県対馬市

参加人数：97名

活動内容：海岸清掃、ワークショップ、観光

カウンターパート：長崎県・対馬市（後援）、一般社団法人対馬CAPPA、釜山外国語大学、釜山文化財団

成果・課題：韓国人学生との交流ができた一方で、地元の高校生・中学生の参加の少なさが課題

新潟県佐渡市海岸清掃活動

活動日時：9月11日～14日

活動場所：新潟県佐渡市

参加人数：75名

活動内容：海岸清掃、地域の方との交流会

カウンターパート：佐渡市、大野亀ロッジ

成果・課題：4年ぶりの活動を再開することができたが、地域の方々との協働はこれから



地域・河川清掃



活動日時：通年

活動場所：全国各地

参加人数：1,056名

助成：日本財団

成果・課題：クラブを中心に清掃活動は定着してきたが、外部参加者の巻き込みはこれから

千葉県九十九里浜 全域清掃大作戦



活動日時：9月3日～10日

活動場所：千葉県九十九里浜全域（旭市～いすみ市）

参加人数：206名

活動内容：海岸清掃、現場作業研修

カウンターパート：千葉県、旭市、いすみ市、一宮市、大網白里市、九十九里町、山武市、白子町、匝瑳市、長生町、横芝光町、カネイグループ

成果・課題：コロナ禍以降、縮小開催だったPJを通常化に戻す取り組みとして、3桁の参加隊員運営に取り組めた。時期と海岸アクセスの関係で、一般参加者を受け入れられる運営が課題

千葉県印旛沼クリーン大作戦



活動日時：8月3日～5日

活動場所：千葉県八千代市

参加人数：46名

活動内容：桑納川の外来水生植物ナガエツルノゲイトウの除去

カウンターパート：千葉県、印旛沼土地改良区、特定非営利活動法人 印旛沼広域環境研究会

成果・課題：駆除面積約1,000平米、駆除体積約130立米、駆除重量約17トン

山形県日本海沿岸清掃活動



活動日時：6月17日～18日、8月29日～9月2日、11月18日～19日、3月13日～16日

活動場所：山形県酒田市飛島、遊佐町、鶴岡市

参加人数：218名

活動内容：海洋漂着ごみの回収、海洋漂着ごみ学習のセミナー

カウンターパート：山形県、特定非営利活動法人パートナーシップオフィス、ゆらまちっく戦略会議

成果・課題：計139.53キロリットルの各種漂着ゴミの回収

京都府阿蘇海環境づくり活動



活動日時：9月1日～4日、10月14日～15日、3月1日～4日

活動場所：京都府宮津市、与謝野町

参加人数：147名

活動内容：住民参加型カキ殻回収作業・清掃活動、カキ殻の資源活用としての農地へ散布、子ども向け環境学習会、生物調査、フィールドワーク、交流会

カウンターパート：阿蘇海環境づくり協働会議、京都府丹後広域振興局、宮津市、与謝野町、吉野茶屋、特定非営利活動法人 Sports Club RAINBOW、宗教法人 智恩寺、京都府漁業協同組合、きょうと生物多様性センター、天橋立文珠繁栄会、天橋立総合事業株式会社、京都府立海洋高等学校、天橋立ワイン株式会社、京都府農林水産技術センター 海洋センター

成果・課題：カキ殻回収量約5トン。延べ約150名の地域住民に参加いただいた。地域の総合型スポーツクラブと新たに連携し、子ども向け環境学習会を実施することができ、これまで以上の子どもたちに参加いただいた。地域住民と連携した文殊清掃や、阿蘇海の生物調査を初めて実施することができた

長野県伊那谷環境保全活動

活動日時：5月5日～7日、9月15日～18日、11月17日～19日、3月15日～18日

活動場所：長野県飯田市

参加人数：121名

活動内容：竹林整備、幼竹の収穫とメンマ加工、フィールドワーク、交流会

カウンターパート：特定非営利活動法人いなだに竹 Links、飯田市、駄科区、長野県立飯田風越高等学校

成果・課題：約20,000㎡の竹林を整備。地元高校生や地域住民等の活動への参加が定着してきた



竹林整備活動



活動日時：4月23日、5月28日、6月18日、9月24日、10月22日、11月19日、26日、1月28日、3月17日

活動場所: 横浜市こどもの国園内

参加人数: 70名

活動内容: 園内の竹林整備活動

カウンターパート: 社会福祉法人こどもの国協会

成果・課題: 園内の竹林整備によるこども施設の安心安全な運営に貢献。刃物や作業場所の安全管理についての知見の蓄積や後輩育成の継続が課題

千葉ソーラーシェアリング スタディツアー



活動日時: 6月10日、7月23日、8月19日、3月2日

活動場所: 千葉県千葉市

参加人数: 18名

活動内容: 営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）の見学と農業体験

カウンターパート: 千葉エコ・エネルギー株式会社、株式会社つなぐファーム

成果・課題: 身近な活動の場を提供できた。天候の問題で何回か中止になった

琵琶湖湖岸清掃活動



活動日時: 8月25日～27日・3月7日～10日

活動場所: 大津市・草津市・守山市・野洲市・近江八幡市・彦根市・米原市・長浜市・高島市

参加人数: 291名

活動内容: 琵琶湖湖岸の清掃、「ゼロウェイスト」の理念の啓発

カウンターパート: 公益財団法人日本財団「海と日本PROJECT」、讀賣テレビ放送株式会社、滋賀県道路公社、琵琶湖汽船株式会社、滋賀県立琵琶湖博物館、読売テレビ24時間テレビチャリティー事務局

※最終日の3月10日のは「びわ湖プロジェクト2024」として「読売テレビ24時間テレビチャリティー事務局」と共催で清掃活動を実施しました。

成果・課題: 可燃ごみ399袋(679kg)、不燃ごみ150袋(349kg)、地域住民の参加者数がまだまだ少ないことが課題

琵琶湖外来水生植物除去 大作戦2023

活動日時: 9月8日～9月10日

活動場所: 滋賀県高島市

参加人数: IVUSAの学生78名、理事・事務局3名、卒業生5名、滋賀県庁自然環境保全課から2名、東近江環境事務所から1名、西菱電機株式会社から4名の計93名

活動内容: オオバナミズキンバイを除去

カウンターパート: 琵琶湖外来水生植物対策協議会、滋賀県、高島市、独立行政法人水資源機構、湖西漁業協同組合、西菱電機株式会社、東近江環境事務所

成果・課題: 新しい除去方法である淀川式で除去を行い、約5,500㎡のオオバナを除去することができた



オオバナミズキンバイ除去活動

活動日時: 通年

活動場所: 滋賀県長浜市、守山市

参加人数: 134名

活動内容: オオバナミズキンバイ除去活動

カウンターパート: 琵琶湖外来水生植物対策協議会、滋賀県、独立行政法人水資源機構、玉津小津漁業協同組合、株式会社ラーゴ、びわ100-びわ湖チャリティー100km歩行大会、公益財団法人平和堂財団（夏原 Grant）

成果・課題: オオバナミズキンバイは琵琶湖においては、減少傾向にあるが、琵琶湖全域に繁殖をしており、繁殖を確認されたらなるべく早く初期対応をする必要がある。その意味では初期対応に寄与することができた



沖縄県石垣島 海洋漂着ゴミ水際掃討大作戦

活動日時: 2月15日～20日

活動場所: 沖縄県石垣市

参加人数: 79名

活動内容: 海洋漂着ごみの回収、アップサイクル体験

カウンターパート: 石垣市、合同会社縄文企画

成果・課題: 64.17キロリットルの各種漂着ゴミの回収



鴨川オオバナミズキンバイ除去活動

活動日時：7月2日、10月21日

活動場所：京都府京都市

参加人数：148名

活動内容：オオバナミズキンバイ除去活動

カウンターパート：京都府、公益財団法人平和堂財団（夏原グラント）

成果・課題：2回で2,160kgを除去することができた



国際協力活動

カンボジア子ども教育支援活動



活動日程：2月17日～24日

活動場所：カンボジア王国クラチエ州

参加者：15名

活動内容：フィールドワーク、キロ62小学校基礎工事、小学生との交流企画

カウンターパート：KHJ Construction Co.Ltd、アース製薬株式会社、藤原國雄様

成果・課題：学校建設の基礎工事の実施一コロナで立ち止まっていた建設活動を前に進めることができたが、円安や物価高による資金建設計画の高騰による活動実施の遅延、参加費増による参加者減が課題

フィリピン環境保全活動

活動日程：8月30日～9月5日

活動場所：フィリピン・マニラ、ヌエバエンハ州ラオー市

参加者：10名

活動内容：マニラ湾清掃、ラオー市の清掃、デ・ラ・サール大学の学生とのワークショップ等

カウンターパート：デ・ラ・サール大学、農業組合 KADRE

成果・課題：4年ぶりの活動なのでカウンターパートの関係構築を中心に実施。初めてマニラ湾での清掃ができた



留学生との交流会

活動日程：8月3日、26日

活動場所：東京都港区

参加者：20名

活動内容：リクリエーションとフリートーク

カウンターパート：青山国際教育学院

成果・課題：IVUSAの学生・留学生の両方にとっても貴重な交流の場となった



グローバルフェスタでのワークショップ

活動日程：9月30日

活動場所：東京都千代田区

参加者：7名

活動内容：様々な団体の活動発表

成果・課題：昨年を上回る43名の方に参加していただいた



東京インドネシア学校での 防災訓練やワークショップ

活動日程：9月27日

活動場所：東京都目黒区

参加者：3名

活動内容：講演とフィールドワークのサポート

成果・課題：初めて在留外国人向けの本格的な防災プログラムを実施することができた



災害救援活動

令和5年7月九州北部豪雨 災害救援活動



活動日時：7月21日～24日、7月27日～30日、8月3日～7日、8月16日～19日

活動場所：福岡県久留米市

参加人数：84名

活動内容：庭の泥だし、床下泥水排水、床下泥だし、ビニールハウス泥だし

カウンターパート：公益財団法人車両競技公益資金記念財団、久留米市災害ボランティアセンター、社会福祉法人久留米市社会福祉協議会、久留米市、災害NGO 結

成果・課題：ニーズ件数：20件 / 完了数 20件

令和5年7月東北北部豪雨 災害救援活動



活動日時：7月21日～24日、7月27日～8月1日、8月16日～20日

活動場所：秋田県秋田市、五城目町

活動人数：133名

活動内容：納屋の泥だし・仕分け、ニーズ調査、一般ボランティアのアテンド、家財運搬、断熱材出し、床下・ビニールハウスの泥だし、災害廃棄物の分別・運搬、床板・フローリングはがし、負けたまパック配布、土嚢仕分け

カウンターパート：公益財団法人車両競技公益資金記念財団、五城目町災害ボランティアセンター、社会福祉法人五城目町社会福祉協議会、DRT-JAPAN、DEF-TOKYO

成果・課題：ニーズ件数：29件 / 完了数 29件

令和5年台風13号災害救援活動



活動日時：9月16日～20日、9月28日～10月2日、10月6日～9日、10月21日～23日、10月27日～30日

活動場所：福島県いわき市、千葉県茂原市

参加人数：315名

活動内容：ヒヤリング調査、家財の運搬、断熱材除去、床板外し、仮板張り、畳はり、床下泥水排水、家財運搬、倉庫掃除、カビ取り、床板洗浄、床下泥だし、壁はがし、ブロック塀の解体・運搬、側溝清掃、仮集積場のガラスひろい

カウンターパート：公益財団法人車両競技公益資金記念財団、いわき市災害ボランティアセンター、社会福祉法人いわき市社会福祉協議会、茂原市災害ボランティアセンター、社会福祉法人茂原市社会福祉協議会、DRT-JAPAN、DEF-TOKYO、お寺災害ボランティアセン

ター(テラセン)、DRT- 栃木、特定非営利活動法人災害救援レスキューアシスト、災害支援ネットワークちば(CVOAD)

成果・課題: ニーズ件数: 22 件 / 完了数 22 件、個別ヒアリング 380 軒、ポスティング 850 軒

令和6年能登半島地震 災害救援活動



活動日時: 1月12日～15日、1月19日～22日、1月26日～29日、2月1日～5日、2月9日～12日、2月15日～19日、2月22日～26日、2月29日～3月4日、3月9日～13日、3月15日～18日、3月22日～25日

活動場所: 石川県珠洲市、輪島市、富山県氷見市

活動人数: 298 名

活動内容: 避難所での炊き出し、避難所での足湯、家財整理・運搬、屋根瓦の除去、ブロック塀の解体・運搬、被災家屋の内壁の補修、液状化被害に遭った住宅の床下の泥出し、漁港の整備(仮置き場にする倉庫の片付け、被災漁具の片付け等)、神輿・キリコ(山車)の救出、キリコ倉庫の解体

カウンターパート: 公益財団法人車両競技公益資金記念財団、珠洲市災害ボランティアセンター、社会福祉法人珠洲市社会福祉協議会、狼煙地区、横山地区、DRT-JAPAN、特定非営利活動法人災害救援レスキューアシスト、DEF-TOKYO、一般社団法人ピースポート災害支援センター、特定非営利活動法人 Smile Seed、お寺災害ボランティアセンター(テラセン)、DRT- 栃木、指崎泰利様、社会福祉法人氷見市社会福祉協議会、氷見市災害ボランティアセンター、氷見市柳田地区自治連合会、ひみキトキトこども食堂ネットワーク、社会福祉法人輪島市社会福祉協議会、輪島市災害ボランティアセンター、コミサボひろしま、被災地 NGO 協働センター、宝達志水町社会福祉協議会、宝達志水町災害ボランティアセンター、災害 NGO 結、株式会社サンライフ

成果・課題: ニーズ件数: 58 件 / 完了数 58 件、炊き出し: 延べ 17 か所 / 80 回 / 計 3,665 食提供

東日本大震災復興支援活動



活動日時: 8月25日～28日、11月3日～5日、3月9日～13日

活動場所: 宮城県山元町

活動人数: 270 名

活動内容: 海岸清掃、マルシェの開催、秋祭り運営補助、慰霊式典・慰霊祭の開催、震災遺構フィールドワーク

カウンターパート: 宮城県山元町、円通山普門寺、功德山浄正寺、テラセン、DRT 栃木、花釜音頭保存会

成果・課題: 復興モデルづくりとしての賑わい創出・生業創出、東日本大震災を風化させずに若い世代に伝承していく取り組み。進んだ部分の成果と、進み切れない課題とが併存

子どもの教育支援活動

学び場イコカナ



活動日時: 通年開催(週1回)

活動場所: 成勝寺、宮坂事務所

参加人数: 30 名

活動内容: 小学生対象の学習支援

対象: 世田谷区内の小学生

カウンターパート: NPO 法人まちこらぼ、伏見山 成勝寺(場所提供)、世田谷区(活動費助成)

成果・課題: 通年の実施で 54 回開催。学習のつまづき防止の場としては効果がみられたが、学習意欲の高め方には課題あり。夏すぎからは参加児童が増加し、近隣 4 校の小学校に在籍する児童が集まったことにより、教材の違いや学習している単元の相違等に関心を持ったりと他校同士の児童の交流の場ともなっていたのは思わぬ産物だった

才教学園 STEAM 教育学習支援



活動日時: 12月1日～2日

活動場所: 長野県松本市

参加人数: 12 名

活動内容: 小学校 6 年生と一緒に、防災、避難所運営について学ぶ

カウンターパート：学校法人才教学園

成果・課題：3回目の開催で、学園側教職員としっかり連携して行えるようになったこと、中等部に進んだ上級生とのつながりが深まっている。平月の活動のため、大学生側の授業の関係で、リピート参加ができないケースによる、活動経験の蓄積と継承が課題

だいが地域活動応援隊



活動日時：通年（22回実施）

活動場所：京都府京都市

参加人数：86名

活動内容：子どもの居場所に参加し、子どもたちと一緒に過ごし、遊びや学習等の活動をサポート

カウンターパート：京都市醍醐支所

成果・課題：安定的に学生ボランティアを派遣できた

新潟県 双葉寮・聖母愛児園学習支援

活動日時：（対面）8月4日～17日、11月3日～5日、3月24日～28日（オンライン）108回

活動場所：新潟県長岡市、オンライン

参加人数：122名

活動内容：学習支援事業

カウンターパート：双葉寮、聖母愛児園

成果・課題：オンライン、対面ともに活動を実施することができた



子ども向け教育支援事業 （泉大津市、京田辺市）

活動日時：通年

活動場所：京都府京田辺市、大阪府泉大津市

参加人数：泉大津市（106名）、京田辺市（301名）

活動内容：学習支援

カウンターパート：京田辺市、泉大津市

成果・課題：京田辺市では週2回、泉大津市では週1回、安定的に開催することができた

その他の事業活動

沖縄県戦没者遺骨収集活動



活動日時：9月7日～12日、3月13日～18日

活動場所：沖縄県糸満市

参加人数：96名

活動内容：戦没者の遺骨収集、戦争資料館見学、慰霊式典

カウンターパート：沖縄県平和祈念財団、平和祈念友の会、ひめゆり会館

成果・課題：戦没者御遺骨（見込み）2柱、遺留品1点

厚生労働省主催 戦没者遺骨収集事業



活動日時：5月11日～26日、7月25日～8月10日、8月17日～9月1日、9月14日～9月29日、9月26日～10月12日、1月28日～2月10日、1月30日～2月15日、2月21日～3月7日

活動場所：東京都硫黄島、アメリカ領マリアナ諸島

参加人数：12名

活動内容：戦没者の遺骨収集

カウンターパート：一般社団法人 遺骨収集推進協会

成果・課題：8回12人派遣推薦、戦没者御遺骨（見込み）帰還131柱

世田谷区市民活動支援コーナー 管理運営受託

活動日時：通年

活動場所：東京都世田谷区

運営人数：17名

活動内容：市民活動支援施設の管理運営

カウンターパート：公益財団法人 せたがや文化財団

成果・課題：令和5年度開館314日、2,288件、8,478人利用



世田谷お助けサービス

活動日時：通年（依頼の都度）

活動場所：東京都世田谷区

運営人数：20名

活動内容：世田谷区にお住まいの方のちょっとした困りごとの依頼に対し、学生が有償ボランティアで対応

カウンターパート：せたがや防災 NPO アクション

成果・課題：今年度は世田谷区の18名の住民から依頼を受け、合計110回のお助けサービスを実施しました。窓そうじや庭の草むしり、外出時のお手伝い、会合でのサポートという定期的な依頼から、家具の移動や組立、粗大ごみの運び出し、電球交換、病院やカラオケへの同行、さらにはケガのため一時的にペットの世話が困難になった方の犬の散歩代行など、その時々様々なニーズに応えることができた。この事業をより多くの人に知ってもらい、お助けサービスに携わる学生を増やしていくことが今後の課題

世田谷 これ…どうしよう？
 日常のちょっとしたお困りごとありませんか？
 大学生がお手伝いします！

お助けサービス

- 倉庫にある荷物とりたいたいんだけど腰が悪くて取れないわ…
- お庭の草が生えすぎてしまって、草むしりしたいけど…
- 病院内で車いす押してくれる人がいなくて…
- 最近窓が汚れてきて、窓ふきしたいけど…
- 等々…

お気軽にお問い合わせください!!
 ☎ 03-6751-2683(平日受付)

主催：NPO法人国際ボランティア学生協会 協力：せたがや防災NPOアクション

研修

スタートアップ研修



日時：7月～3月

場所：オンライン、関東・関西の大学・研修施設

担当者：30名 受講人数：1,049名

研修内容：IVUSAの団体紹介、マネジメントの基礎、日常のリスクから身を守る

スタッフ研修

日時：6月～3月 場所：オンライン

担当者：10名 受講人数：419名

研修内容：スタッフ会員としての心構え、コミュニケーションの基本、リスクマネジメント、計画する際の手順、ロジスティクス

マネジメント研修

日時：6月～2月

場所：オンライン、長野県伊那市高遠町、静岡県西伊豆町

担当者：4名 受講人数：196名

研修内容：日本と世界の課題、IVUSA理解、クラブ・プロジェクトマネジメント



災害ボランティア入門講座

日時：5月～3月

場所：オンライン

担当者：2名

受講人数：49名

研修内容：災害のメカニズム、災害から身を守る方法、災害ボランティアの心構えや準備

ロジスティクスマイスター講習



日時：6月、12月

場所：オンライン、東西事務所、静岡県静岡市、西伊豆町

担当者：10名 受講人数：54名

研修内容：マイスターとしての心構え、移食住装備に関する座学・実技

研修インストラクター講習

日時：5月、6月、11月

場所：オンライン、東西事務所

担当者：6名 受講人数：30名

研修内容：インストラクターとしての心構え、研修内容理解、教授方法

運営スタッフ向け実務研修

日時：6月、7月、12月

場所：オンライン

担当者：10名 受講人数：393名

研修内容：スタッフの心構え、各役職の業務内容のレクチャー



学生・職員座談会



「コロナで学生の質は変わったのか?」「学生と職員の微妙な距離感」「今後のIVUSA」などについて、お互いのホンネをぶつけ合いました。

【メンバー】

谷口 純平 (副代表理事)

箭野 純貴 (職員)

小熊 日花 (32期学生代表)

下田 一貴 (32期幹部役員)

司会: まずは「今どきの若者は…」という話からしていきましょう。長年学生と接してきた谷口さん、学生の変化を感じますか?

谷口: 一言でいうと、みんな窮屈そうでのびのびしていない感じがします。今の自分が見えている範囲にATフィールド*を張って、その中で何かに挑戦しようとはするのですが、それ以外はシャットアウトするようなイメージですね。

*アニメ『新世紀エヴァンゲリオン』に出てくる用語。他者との間のバリアのようなもの。

小熊: 確かに戦いや面倒ごとを避けている傾向はあります。総じてIVUSAをコスパ良く活用しているように感じますね。

下田: 何かに没頭していても、SNSでいろいろな人を見ていると、これでいいのかなと不安になってくるのはありますね。いい意味でバカになり切れない、熱中しきれない、斜に構えている感じです。

箭野: 大学時代は、自分もIVUSAにフルベートしていたと思いますが、今もそれに劣らずIVUSAに時間をかけている学生は少なくありません。ただ、あんまり楽しんでやっているように見えないんですよ。

小熊: 確かにやらないといけないことをこなすことに精一杯で、ワクワクすることが少ないのはありますね。

下田: 個人的には新しいことをやるのはワクワクします。あと、私は昨年クラブマネージャーをしていたのですが、会員数を拡大させる、事業を増やすといった未来(結果)が見えているかどうかが重要ではないでしょうか。

司会: 小熊さんが指摘した「効率良くIVUSAを活用していこうという傾向」についてもう少し掘り下げてみましょう。

谷口：IVUSAは毎月、「本部役員」と言われる本部組織や各組織の責任者が集まる会議を行っているのですが、対面で実施してもオンライン参加する人が多いですね。きっとコスパとタイパが悪いとっているんでしょうが。結果、人とかかわることの距離感がつかめないのか、プロジェクトとかでも現地のおじさんと拗れる案件が増えてきました。

小熊：私たち4年生は、大学入学時オンライン授業が主体で、IVUSAでも最初は活動もオンラインしかなくて悔しい思いをしてきた人が多かったと思います。だから、対面の良さや価値が感じられたわけですが、それより下の世代は、オンラインとオフラインを両方選べるので、コスパを考えてその都度選択するのはある意味当たり前かもしれません。

下田：利島の活動のプロジェクトマネージャーをしたときに、活動の目的や達成要件に関して他のメンバーと夜な夜な話し合いをしました。客観的には無駄な時間のように見えるかもしれませんが、当事者の自分たちには充実した時間だったのは間違いありません。割いた時間の分だけやりがいを感じられると思います。

箭野：私は昨年まで一般企業で働いていました。そんなに若い社員と接する機会が多かったわけではないですが（同僚は年上ばかり）、「言われたことはやります、言われた以上のことはしません」というタイプが増えていたと思います。コスパ・タイパを求める風潮に対しては、物事を考えなくなるんじゃないかという懸念はありますね。対面でのコミュニケーションが求められる場面が社会ではまだまだ多いので、その経験値を積んで順応できる下地を作っておかないといけないんじゃないでしょうか。

小熊：もちろんそれは理解できます。オンラインとオフラインの両方経験できることは必要ですが、「なんでわざわざ」と対面での企画に参加を渋る後輩を説得するのは簡単ではないのも事実です。対面の会議の前後にあるたわいのない雑談とか、事前の根回しの必要性や価値は経験してみないと感じられないのかなと思います。



1980年岡山県生まれ

人が喜んでくれることが、何よりも好き。

誰もが成し得ない大きいことをして、驚きと感動を作りたいと思いIVUSAに入会。

11期学生代表を務め、多くの仲間に支えられ様々なボランティア活動に従事。

大学卒業後、化学品メーカーで国内営業、広報、公益事業開発担当者としてODA（政府開発援助）、国際機関との連携、ソーシャルビジネスの立ち上げにアジア、アフリカの奥地へと開拓に向かう。好奇心と遊び心を持って仕事に取り組むことをモットーに、自分の可能性に挑戦し続けている。会社員と平行して非常勤事務局員として関西支部を立ち上げる。

現在は、副代表理事を務め、法人運営全般、企業連携、事業開発等を担当

下田：私もクラブマネージャーのときは、対面での全体会議に参加するのがコスパ悪いと思っていました。今は、オンラインでの会議の後、すぐにログアウトしてしまうと寂しいと感じるようになりました。大学生までが無駄や余白な時間を楽しめる期間だと思えます。社会人はどうしても時間あたりの価値を考えてしまうでしょうから。

小熊：学生は給料をもらってやっているわけではないです。極端に言えば、効率的にやったところで変わらないので、いかに楽しむかが重要だと思います。

箭野：私の一つ上の代の学生代表が、IVUSAのことを「本気の遊び場」と言っていました。大学生はIVUSAの活動を仕事してやっているわけではないという意味では「遊び」ですが、だからこそ「本気」でやるというわけですね。遊びにコスパやタイパを持ち込みすぎるのは野暮です。

司会：「本気の遊び場」というのはIVUSAの本質を表していると思います。改めてここで、皆さんがIVUSAを続けている原点や理由を教えてくださいませんか。

谷口：2016年の熊本地震の時、IVUSAの活動をSNSで知って、IVUSAが活動している避難所の近くにおばあちゃんが住んでいるので見に行きたくてという依頼がTwitter（現X）にきました。個別の支援をどこまでするのかという議論もありましたが、炊き出しのおでんを持って会いに行きました。家はタンスが倒れ、ものが散乱していました。とりあえず片付けをしたあと、おばあちゃんがIVUSAに依頼した人に電話して、声にならない声で「ありがとう」と言っているのを見て、「自分がやらなければいけない」と強く感じました。学生時代もネパールに行ったとき、空港で小さな子どもから日本語で「100円ちょうだい」と言われたこともありました。課題のある人に直接接したというのが自分にとって強烈な原体験になっています。

箭野：自分はもともとボランティアに興味はなくて、IVUSAに入ったのも高校時代の先輩にかなり強引に誘われたのがきっかけでした。1年生の夏に、当時助成金をもらっていた関係で一番安く行けた宮城県山元町の東日本大震災復興支援活動に参加したのですが、そこで現地の人や先輩たちから受けたインパクトが原点ですね。自分はそれを「基準値の高いものにふれる」と表現しています。

小熊：やはり現場の件ですね。直近だと、能登半島での災害救援活動で、「生きていてよかったよ」と言葉をかけてもらったときには、上手く言葉も返せなかったのですが、本当に胸がいっぱいになりました。目で見て、体験してみても、心が動きます。だからこそ、現場によりハードル低く行ってもらえるような工夫が必要だと感じています。

下田：皆さんは社会貢献的な部分が強いです。自分は自己成長や自己効力感という面が強いです。高校までずっと野球をやってきたこともあって、一つの集団で同じ目標に向かってやれることにモチベーションが上がりますし、その中での仲間とのつながりに幸福感を持つことができます。

司会：ではちょっと視点を変えて、「職員と学生」の距離感について話してもらいましょう。職員は学生を、学生は職員をどのように見ているんでしょうね。

谷口：学生一人ひとりの、「どこに住んでいるか」「どんな家族構成なのか」といったパーソナルな部分あまり分からないですね。学生がなぜこんなことを言っているか知りたいので、雑談とかは大切にするようにしています。ただ、どこまで触れていいものかというのがあるので、自分のことを話す自己開示は心掛けています。

箭野：言わなければいけないことはあるが、それによって委縮させたり、自ら考えなくさせたりしているのではないかと考えていますね。

小熊：自分は学生代表になる前は、職員の人たちに自分の話などしづらいと畏まっていた。聞かれたら答えますし、うれしいと思う学生は多いんじゃないですか。自分の知らない世界や、IVUSAの過去の話をしてくれるのが職員や卒業生というのが基本的な認識でした。ただ、叱られ耐性はないですね。教育実習とかで教育の現場に行っても、怒るのはタブーになっています。当然、怒られたり、叱られたりしたことのない学生が増えてくるので、感情100%で叱ったところで届かないし、ハラスメン



職員
箭野 純貴

1994年東京都生まれ

現東京多摩クラブ卒（24期）

大学入学直後に、高校の先輩でIVUSA会員の方に誘われて入会。元々ボランティアに全く興味が無い人間であったが、1年夏（2013年）の夏の活動で東日本大震災の被災地（宮城県山元町）に行き現地の状況と人に接し、人の為に行動することのモチベーションを感じる。以後、災害救援活動を中心に全国各地の活動に参加。様々なことに取り組み多くの仲間や経験を得ると同時に大学の単位を失っていく。気付けば大学3年生を2年連続で過ごし4年時は8月で卒業。残りの半年はIVUSAの活動や単身で1ヶ月海外に行くなどこれまた経験出来ないことをする。

大学卒業後、物流企業に入社し、品質、生産性、労務などの管理業務に従事。23年11月より本協会に入職し学生組織運営のサポート、一部研修インストラクターの指導育成、災害救援活動や一部国内事業を担当している。

トと受け取られてしまうリスクもあります。

下田：自分のパーソナルな部分に関しては、大人は興味ないと思っていたので、話すという価値観はなかったですね。あと、職員からのアドバイスや意見に関しては、それに対して自分たちの反論しようとはあまりしないです。「どうせひっくり返される」「経験値を盾に話されると何も言えなくなる」というのは正直あります。もちろんそこまでして押し通そうという熱量やパッションが不足しているのも事実ですが。

小熊：仕事以外のパーソナルな話を職員としたことがあるかは結構重要で、こちらから連絡するハードルがかなり下がります。テキストベースや電話だと怖いけど、対面だと話せるということもありますし。

司会：いわゆる「心理的安全性」を高めるためにも、オフィシャルな活動や会議以外のコミュニケーションも重要ということですね。最後に、IVUSAの今後について「こうなって欲しい」「こうしていきたい」といったビジョンを教えてください。



32期学生代表
小熊 日花

埼玉大学教育学部乳幼児教育コース4年
東京駒沢クラブ所属

東京都渋谷区で飲食店経営をする家庭に生まれる。自身の原体験から子育て支援に携わりたいと考え、大学では乳幼児教育を専攻。

人と違うことをしたり、サプライズを仕掛けるのが好き。

特技は人を笑顔にすること。

苦手なことは早起き。

高校時代の授業がきっかけで環境問題に強い危機感を持っており、大学入学と同時にIVUSAへ入会。

本来であれば越谷クラブになるが、当時はコロナ禍で大学に通えない日々だったため、自宅から近い駒沢クラブに所属する。

本格的に活動ができたのは2年次の夏、初の対面プロジェクトとなる九十九里全域清掃大作戦で当日作戦を担う。3年次夏には関川村大したもん蛇まつり活性化活動にてスタッフマネージャーを務める。

下田：かかわっている人がIVUSAを心の底から誇れるような団体にしたいですね。そのためにも会員個人の満足度や充実度を高めるだけでなく、IVUSAの知名度がもっと上がって欲しいです。

小熊：私ももっと多くの人にIVUSAを知って欲しいと思います。学生の熱量を取り戻しつつ、新たな手法やツールなどの風を入れていきたいです。IVUSAがこれまで大切にしてきた「泥臭い部分」や「意味のある無駄」といった部分はキープしつつ、スマートさとのバランスを取っていきたいですね。

箭野：前にも言いましたが「本気で遊べる場」に。やはり、遊び心が重要です（私はそんなにないのですが…）。

谷口：NPOである以上、何らかの課題を持っている人や社会の役に立ちたい。汗をかき、「ありがとう」という言葉で感動できる人を増やしていきたいです。

司会：ありがとうございました。



32期幹部役員
下田 一貴

立命館大学政策科学部4年
プロジェクトサポート本部所属

「野球人以外との関係性を作りたい」「普通の大学生ではできない経験をしたい」という想いから、IVUSAに入会することを決意。

大学でも野球を続けていたことや、コロナの影響もあり、IVUSAの活動に本格的に参加したのは大学2年夏の利島村活性化活動だった。

そして3年次には、クラブマネージャーとプロジェクトマネージャーを経験し、今に至る。

複数のメンバーと共通目標に向かって努力し、喜びを分かち合うことに楽しさややりがいを感じてきた。



協賛企業一覧

IVUSA は学生が主体で運営していますが、行政や企業の方々をはじめとする様々な方々の支えがあって活動が成り立っています。

IVUSA ではこのようなご支援いただいている方々を「コントリビューションパートナーズ」と呼ばせていただいております。

法人会員

- ・株式会社三四郎
- ・株式会社西伊豆プロジェクト
- ・青山国際教育学院
- ・三菱マテリアル株式会社
- ・日軽パネルシステム株式会社
- ・株式会社サンライフ

寄付・支援金

- ・株式会社ネオ倶楽部
- ・小田原赤十字
- ・読賣テレビ放送株式会社
- ・十日町市サンライズプロジェクト
- ・びわ湖チャリティー100km歩行大会
- ・EMIELD株式会社
- ・日軽パネルシステム株式会社
- ・長瀬産業株式会社
- ・アスカ美装株式会社

物品協賛

企業名	商品名	個数
株式会社マンダム	ボディペーパーギャツビー	400
希望食品株式会社	アルファ米	150
株式会社ニイタカ	手指用アルコール消毒剤	10
株式会社扶双	カラー軍手	100
赤城工業株式会社	瞬間冷却剤（パンチクール）	555
株式会社ランドアート	塩タブレット MIX 袋タイプ	103,600
オカモト株式会社	貼るカイロレギュラーサイズ	300
	貼らないカイロレギュラーサイズ	300
	貼るカイロミニサイズ	300
	貼らないカイロミニサイズ	300
広瀬重光刃物店	鉈	5
井関食品株式会社	塩分タブレット	2,000
アイリスオーヤマ株式会社	貼るカイロ	1,200
	靴下カイロ	240
宇都宮製作株式会社	天然ゴム厚手手袋	70

助成

- ・公益財団法人 車両競技公益資金記念財団 災害救援活動
- ・公益財団法人 日本財団「海と日本PROJECT」
ユースによる海洋ごみ対策キャンペーン Youth for the Blue
- ・公益財団法人 平和堂財団 琵琶湖外来水生植物除去活動
- ・株式会社 フェリシモ フェリシモ基金 災害救援活動



サービス提供

- ・株式会社PR TIMES

メディア掲載一覧

No	活動名	掲載メディア	掲載日
1	山中湖村中学校講演	山梨日日新聞	2023年5月2日
2	長野県伊那谷環境保全活動	南信州新聞	2023年5月9日
3	学生代表インタビュー	ボランティア情報 2023年6月号	2023年6月1日
4	千葉県印旛沼グリーン大作戦	千葉テレビ	2023年8月4日
5	西伊豆町役場インターンシップ	伊豆新聞	2023年8月8日
		静岡新聞	2023年8月12日
6	山形県日本海沿岸清掃活動	山形新聞 荘内日報	2023年8月31日 2023年9月3日
7	新潟県佐渡市海岸清掃活動	NST 新潟総合テレビ	2023年9月14日
		新潟日報	2023年9月15日
8	沖縄県戦没者遺骨収集事業	毎日新聞	2023年9月14日
9	阿蘇海環境づくり活動	読売新聞	2023年10月29日
10	沖縄県石垣島海洋漂着ゴミ水際探討大作戦	八重山毎日新聞	2024年2月17日
		八重山毎日新聞	2024年2月18日
11	新潟県関川村「七ヶ谷 雪ほたる」	NHK 新潟放送局	2024年2月22日
12	令和6年能登半島地震救援活動	NHK	2024年2月3日
		毎日新聞	2024年2月28日
		KNB 北日本放送	2024年3月5日
13	京都府阿蘇海環境づくり活動	読売新聞	2024年3月3日
14	宮城県山元町東日本大震災復興支援活動	河北新報	2024年3月12日
15	長崎県対馬市海岸清掃活動	対馬新聞	2024年3月29日



①2023年5月2日付
「山梨日日新聞」



②2023年5月9日付
「南信州新聞」



③2023年6月1日付
「ボランティア情報2023年6月号」



④2023年8月4日付
「千葉テレビ」



⑤2023年8月8日付
「伊豆新聞」



⑤2023年8月12日付
「静岡新聞」



⑥2023年8月31日付
「山形新聞」



⑥2023年9月3日付
「荘内日報」



⑦2023年9月14日付
「NST新潟総合テレビ」



⑦2023年9月15日付
「新潟日報」



⑧2023年9月14日付
「毎日新聞」



⑨2023年10月29日付
「読売新聞」



⑩2024年2月17日付
「八重山毎日新聞」



⑩2024年2月18日付
「八重山毎日新聞」



⑪2024年2月22日付
「NHK新潟放送局」



⑫2024年2月3日付
「NHK」

「ありがたい」 学生ボランティア団体、被災者宅
拠点に能登支援

社会 経済 気象・気候 福山 北郷誌
毎日新聞 2024/2/28 13:00 (最終更新 2/28 13:00) 768文字



能登半島地震の被災者を支援しようと、NPO法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA、本部・東京都) のメンバー約30人が、富山県水見市を拠点に支援活動を展開している。宿泊場所は、液状化の影響で一部損壊となった指崎泰利さん (67) の自宅と元食堂。学生らは飲料水も出ない時期から同市入りし、被災者のために汗を流している。

1993年設立のIVUSAには、全国約80大学2500人の学生が所属。専門的な研
⑬2024年2月28日付
「毎日新聞」



⑭2024年3月5日付
「KNB北日本放送」



⑬2024年3月3日付
「読売新聞」



⑭2024年3月12日付
「河北新報」

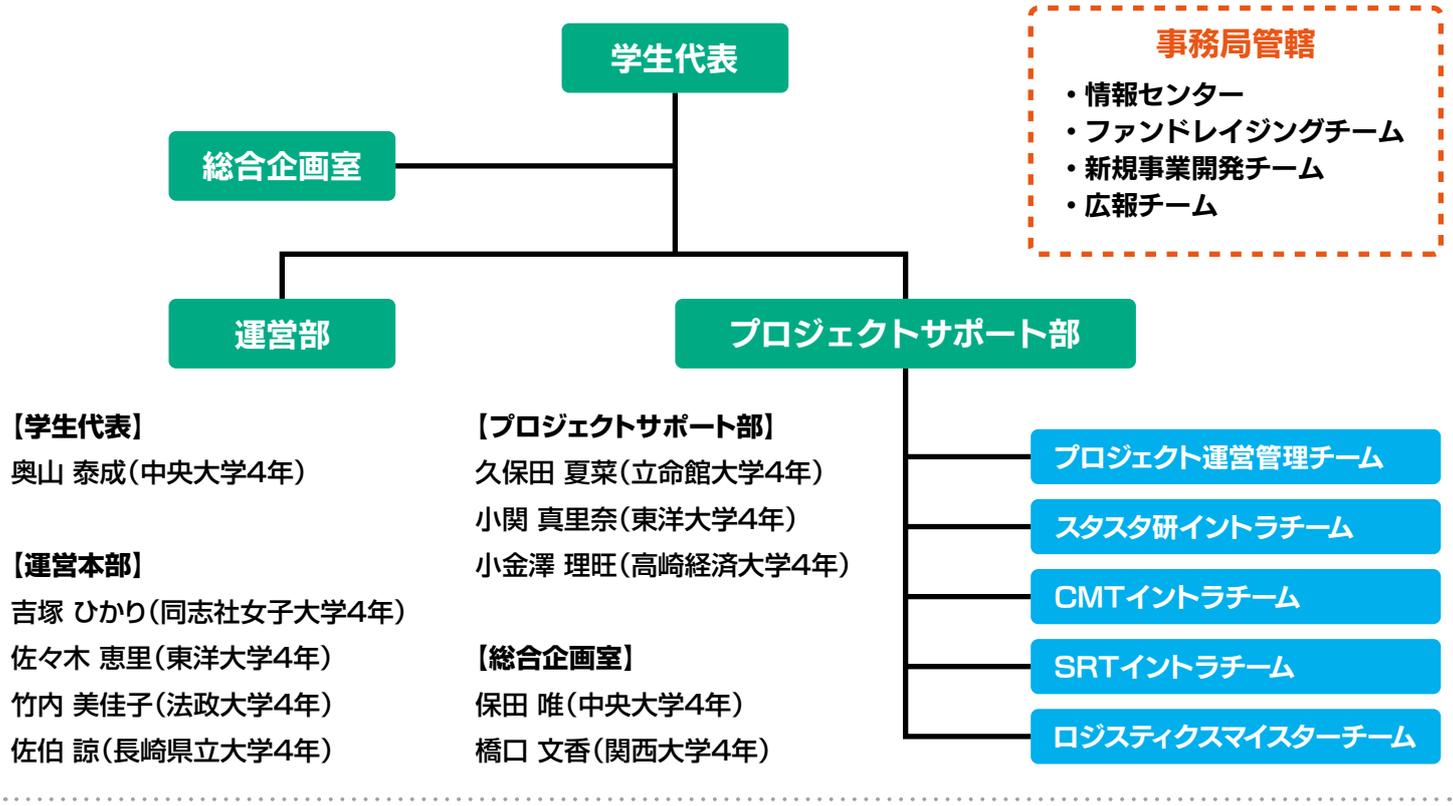


⑮2024年3月29日付
「対馬新聞」

収支報告書

収入の部		支出の部	
入会金・会費	34,024,200 円	事業費	147,657,047 円
寄付金	10,520,863 円	管理費	34,907,136 円
助成金	34,578,851 円		
事業収入	83,829,678 円		
その他	3,197 円		
合計	162,956,789 円	合計	182,564,183 円
当期収支			▲ 19,607,394 円

31期学生組織



●クラブ一覧

東京世田谷クラブ
東京砧クラブ
東京駒沢クラブ
東京市ヶ谷クラブ
東京三崎町クラブ
東京白山クラブ
東京板橋クラブ
東京小日向クラブ
埼玉越谷クラブ
東京多摩クラブ

東京八王子クラブ
東京日野クラブ
神奈川白楽クラブ
群馬高崎クラブ
山形酒田クラブ
京都今出川クラブ
京都上賀茂クラブ
京都西院クラブ
京都京田辺クラブ
京都深草クラブ

大阪高槻クラブ
大阪吹田クラブ
大阪茨木クラブ
大阪東大阪クラブ
兵庫西宮クラブ
滋賀草津クラブ
滋賀瀬田クラブ
長崎佐世保クラブ





中国語



韓国語



クラスレッスン

2名～6名の少人数制ですので、きめ細かい授業が行えます。



プライベートレッスン

一対一でじっくりと「わかる」「使える」実践的なスキルを身につけます。



企業派遣

ご要望を調査し、目標に向けたオリジナルカリキュラムを作成。



表参道から徒歩5分

学校や会社のあとにも通える便利な立地です。



青山国際教育学院

TEL : 03-3403-1901

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-40 青山センタービル3F



23



熱意は人を動かし、社会を動かす®

<https://www.ivusa.com/>

2024年 7月

発行・編集：特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 1-34-4 ザ・アゼリアハウス B-102

Tel/Fax 03-6751-2683 E-mail ivusa-office@ivusa.com